

## 2025 年度 MBA 現代経営学演習 詳細シラバス

森村 文一

fumikazumorimura@b.kobe-u.ac.jp

1. 演習の目的 (p.1)
2. 演習の進め方 (p.2-3)
3. 演習のスケジュール (p.4-6)
4. その他お薦めの書籍 (p.7)

### 1. 演習の目的

現代経営学演習では、ゼミナール方式で専門職学位論文の完成を目指します。このゼミでは、マーケティング論や消費者行動論など、市場（消費者の集合，競争の場）と組織の間に存在する諸問題を研究テーマとして扱います。

学位論文の作成に向けて、ゼミメンバーは幅広い研究エリア・年代の理論に触れながら、ゼミでの報告やディスカッションを通して、以下のことを step by step で進めます（簡単に言っていますが、これらを進めるにはとても時間がかかりますし、直線的には進みません）：

1. 学位論文で扱う「市場と組織の間に存在する問題」を明確にする。そして、その問題から「問い（リサーチのクエスチョン）」を定める。問いを定める際に、その問いを解くことが重要で必要なのか？専門職学位論文で解くべき問題なのか？を考え抜く。
2. 問いはどのような概念および概念間関係で表すことができそうなのかを探し求める。
3. 問いを解くための方法論を理解し、問いを解くためにはどのようなデータが必要になるかを考え、データを収集する方法を設計する。そしてデータを収集する。
4. データを分析し、分析結果を深く解釈する。
5. 専門職学位論文としてまとめる。

上記の問いの設定から論文完成まで、みなさん自らが積極的に計画的に進めていきます。受け身では一生論文は完成しません。注目する問題を理論的に考え、問いを定めること、データを集めることは簡単ではなく、演習に参加する全メンバーの異なる知識や経験を結集する必要があります。ゼミには、同じような問題に関心を持つけれども異なる背景を持つ人たちが集まっています。実りある演習にするために、ディスカッションには全力かつ誠実に参加し、得られた気づきを積極的にシェアするようにしてください。

## 2. 演習の進め方

演習は主に以下の 2 stage があります：

### Stage 1. 関心がある問題と理論を結びつけて考え、問いを定める：

毎回のゼミで、どのような問題に関心があり、その問題はどのような概念などで深掘りできそうかということを報告します。そして、その問題の背後には、「本質的にどのような問いがあるのか？」を探求します。

この段階では、1)「市場と組織の間に存在する問題」に理論的にアプローチするための概念・フレームワーク・理論のライブラリ（頭の中の書庫）を創り、2)皆さんの問題はどのような概念・理論で深掘りできそうかということを知り、3)最新または代表的な学術論文を読み進めそれらの知識を整理し、問いの精緻化を進めます。

問いを定めることは、学位論文で最も重要なことです。これが決まらなければ、扱う問題をどのような概念や概念間関係で理解しようとするのか、学位論文では何を明らかにしようとするのか、どのようなデータが必要か、どのような分析が必要か、が決まらないからです。

「こんなことに関心があるのだけれども…」という皆さんの問いの種を、「理論的にどのような概念間関係（概念モデル）で説明できるか」、「現象を理論的に掘り下げても、理論では説明しきれないこと／まだ残っている疑問／調べなければならないことは何か」、という点から掘り下げていき、問いを定めます。なお、過去の MBA での研究を見ていると、最初に持っている関心が広い・漠然としており、複雑で 1 年では解くことができない問いをセットする場合があります。MBA という限られた時間で解くことができる関心・問いの範囲に絞ることが必要です。そのため、「本当に解かなければならない問いは何か」を意識しましょう。

なお、研究しようとする問題の選定は基本的には自由です。例えば、皆さんが自社または自社が経営活動を行う主な産業に精通しているという強みを生かし、自社のことを理論的に深掘りしつつ、理論的に得られたことを自社に取り込む際に何が起こるのかということを考えることも、1つの良い研究の方向性だと思います。ただし、論文は原則公開である点に注意してください。論文提出直前になって、分析データ提供元などが公開を許可しないケースがあるので、常に公開可否を確認しながら論文作成を進めましょう。

### Stage 2. 方法論を決定し、データ分析・解釈、修士論文の作成を進める：

皆さんの問いに合わせて、定性的／統計的分析手法を選択し、調査設計を行います。必要があれば講義形式で方法論について学び、データ分析の実習も行います。そして、データを分析し、得られた結果から、企業成長のために何を提案できるかを考えます。論文の書き方も、

この段階で学びます。

ゼミは M1 の 9 月から M2 の 8 月まであります。M1 のうちは、問いを定めること (Stage1) に全力を注ぎます。専門職学位論文は、企業（多くの場合、皆さんの所属企業）の持続的成長に関する意思決定をサポートできるような、例えば「シンプルだけれども意味のある問いの解明と実務的提案」を行うことを目指します。その最初にして最重要な部分が問いです。M1（人によっては M2 のある時期まで）では、「本当にその問いで良いのか？本当にその問いを解きたいのか？（その問いを解く覚悟はあるのか？その問いを解くことは求められているのか？）」「その概念、概念間関係で良いのか？」ということを経験し、全員で議論することを通して、問いを定める旅を続けます。M1 は 4 回（9 月、10 月、12 月、2 月）ゼミがあります。

M2 に入ると、より現象理解に貢献する概念間関係を探し求めるとともに、問いを解くための方法を定め、データを収集・分析し、分析結果を解釈し、論文としてまとめます (Stage2)。M2 はほぼ毎週ゼミがあります。

M1 の最後のゼミと M2 の最初のゼミまでの間はやや時間が空きます。その間にも、たくさんさんの先行研究を読み、問いを精緻化し、その問いの解明の必要性・重要性を考え続けます。学位論文の作成は孤独な作業ですが、研究活動が停止しないように、コミュニケーションツール（Discord）を用いて、演習の場以外でも情報共有や議論をしながら進めます。また、このゼミでは研究関心が近い 2 人でバディを組み、ゼミで得たコメントやアイデア、文献探索で得たもの、調査設計、データの収集や分析などを共有し、励ましあいながら研究を進めます。

### 3. 演習のスケジュール

2025年度のDay 1. からDay 4. では、研究を進める際に必要となる知識を共有するセッションを行うとともに、全メンバーが研究進捗を報告します。

#### Day 1. 2025年9月13日(土) 8:50-12:10

##### ▶ゼミコンテンツ1 インTRODクシヨン:

この日は、ゼミの初回です。履修科目の関係で、担当教員やTA、サポート教員と初めて会う人もいるかもしれません。そこで、最初に担当教員やTA、サポート教員の自己紹介を行うとともに、この演習の進め方を説明します。

##### ▶ゼミコンテンツ2 研究報告:

全ゼミメンバーが、以下のことから簡単に報告します(報告6-7分、質疑応答2-3分)。

- A) 自己紹介
- B) 専門職学位論文では、どのような問題を扱おうとするのか?
- C) その問題はどのような概念・理論でアプローチしようとするのか?それはなぜか?
- D) 現時点で、どのような問いをセットするのか?
- E) その問いの解明は、重要で必要なのか?求められているのか?
- F) 誰にどのようなことが還元できるのか?

午後はM2のポスターセッションに参加し、修士論文の構成や完成、問いの設定や先行研究との関係、調査などの具体的なイメージを得ます。

##### ▶事前に読むべき文献 ライブラリを広げる、リサーチイメージを得る

マーケティングに関する概念・理論を広く知る(最新のものには含まれないが):

- 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩(2010)『マーケティング New Liberal Arts Selection』有斐閣.
- 恩蔵直人, 坂下玄哲[編](2023)『マーケティングの力 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣.

消費者の認知・知覚や意思決定、行動に関する概念・理論を広く知る(最新のものには含まれないが):

- 田中洋(2015)『ベーシック+ 消費者行動論』中央経済社.

関心を寄せる現象から問いを精緻化し、社会貢献を考えるイメージを得る:

- ウェイン・C・ブース, グレゴリー・G・コロンプ, ジョセフ・M・ウィリアムズ, ジョセフ・ビズアップ, ウィリアム・T・フィッツジェラルド[著], 川又政治[訳](2018)『リサーチの技法』ソシム.

## Day 2. 2025年10月11日(土) 8:50-18:30

### ▶ゼミコンテンツ1 文献探索の方法：

この日のゼミは、問いを精緻化することが主目的です。問いを精緻化するためには、その問いの精緻化に貢献しそうな概念・理論を知っていることが必要です。さらに、ある概念・理論を扱っている論文を丹念かつ高速で探すことが必要です。そこで、ゼミの最初に論文の探し方についてのセッションを行います。

### ▶ゼミコンテンツ2 研究方法論の違い：

研究方法の種類や違い、論文全体のイメージを持つことは、問いの精緻化を進めることに貢献します。そこで、これらのことがらについてのセッションを行います。

### ▶ゼミコンテンツ3 研究報告：

Day1の研究報告の後、各メンバーは問いの精緻化(人によっては問いの変更)、先行研究で分かっていることの整理を行います。Day2では、以下の研究進捗を全メンバーが報告します(報告10分、質疑応答10分)：

- A) 現時点での問いは何か？
- B) 先行研究を読み、整理する：先行研究たちは、何をどのように明らかにしているのか？それらの研究の知識では解けないことは何か？
- C) 先行研究を整理したうえで、問いはどのような概念および概念間関係(原因と結果)で表すことができるのか。問いを表現する際に、なぜその概念および概念間関係が有効だと考えられるのか？他により良い概念がある可能性は無いのか？

### ▶事前に読むべき文献

質的・量的研究方法の目的や違いを知る：

- 田村正紀(2006)『リサーチ・デザイン』白桃書房。

## Day 3. 2025年12月6日(土) 8:50-18:30

このころまでには、研究テーマおよび問いがある程度固まっていることが望ましいです(が、現実的には4月ごろまで問いが固まらない、4月以降に問いが大きく変わることが多々あります)。Day3は、少し調査設計を意識した研究進捗報告を行います。

### ▶ゼミコンテンツ 研究報告：

Day2の報告後に、先行研究の探索と整理を続け、問いの精緻化(問いはどのような概念および概念間関係で表現できるか?)を続けます。Day3では、全メンバーが以下の研究進捗および新たなことがらを報告します(報告20分、質疑応答10分)：

- A) 現時点での問いは何か？
- B) 先行研究を読み、整理する：先行研究たちは、何をどのように明らかにしているのか？それらの研究の知識では解けないことは何か？

- C) 先行研究を整理したうえで、問いはどのような概念および概念間関係（原因と結果）で表すことができるのか（学位論文で挑戦することは何か）？
- D) 問いを解くために、どのようなデータを収集する必要があるのか？それは誰からどのように収集するのか（入手可能性）？データ収集のスケジュールはどのようなものか？
- E) どのような分析手法を採用するのか？

#### **Day 4. 2025 年 2 月 14 日（土） 8:50-18:30**

このころまでには、問いおよび概念間関係がおおよそ固まっていることに加えて、どのようなデータ収集を行い、どのような分析を行うのかということについて、なんとなく固まっていることが望ましいです（が、現実的にはそうはいかないことがほとんどです。焦らず進めましょう。）。

#### **▶ゼミコンテンツ 研究報告：**

Day 4. では、問い→概念間関係→データ収集→分析→結論までを1通りまとめてシェアすることを目的とします。全メンバーが以下の研究進捗および新たなことがらを報告します（報告 20 分、質疑応答 10 分）：

- A) 現時点での問いは何か？
- B) 先行研究を読み、整理する：先行研究たちは、何をどのように明らかにしているのか？それらの研究の知識では解けないことは何か？
- C) 先行研究を整理したうえで、問いはどのような概念および概念間関係（原因と結果）で表すことができるのか（学位論文で挑戦することは何か）？
- D) 問いを解くために、具体的に、どのようなデータを誰からどうやって収集するのか？データ収集のスケジュールはどのようなものか？
- E) どのような分析手法を採用するのか？
- F) 8月の学位論文提出までのスケジュールはどのようなものか？

#### **M2以降（2026年度）の演習：**

M2は、ほぼ毎週の午後に演習を開催し、問い、概念間関係、データ、分析、を繰り返し報告します（裏でM2の履修科目がある日は、ゼミはありません）。具体的なスケジュールは、Day4にみなさんと共有します。

#### 4. その他お薦めの書籍（以下はごく一部です。都度、ゼミで紹介します。）

- \* 浦上昌則・脇田貴文(2008)『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京書籍.
  - この書籍は、特に、実証研究の論文等を読む際に、理解を助けてくれるだけでなく、自らが統計的手法を用いて論文を書く際に、どのような点に気を付けなければならないかという基本的な理解を提供してくれます。
- \* 伊藤公一郎(2017)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書.
  - この書籍は、因果関係と、因果を確かめるとはどういうことかを理解することに役立ちます。さっと読むことができるサイズなので、移動中などのちょっとした時間を使って頭をストレッチするためにとってもおすすめです。
- \* Flick, U [著], 小田博志[監訳](2011)「新版 質的研究入門 〈人間の科学〉のための方法論」春秋社.
  - この書籍では、質的研究方法とは何かということを理解するとともに、質的研究にはどのような種類・目的があるのかということを学ぶことができます。そして、質的データを収集し、それを分析する際に、どのような手順が必要となるのか、どのように分析結果をまとめていくのかをイメージすることに役立ちます。
- \* 田村正紀(2016)『経営事例の物語分析：企業盛衰のダイナミクスをつかむ』白桃書房.
  - ある時点の経営意思決定・経営行動は、それ以前の経営意思決定・経営行動に影響を受けます。つまり、現在うまくいっている・うまくいっていない事例を分析する際に、それがどのようなことからの連鎖の果てに起こっていることなのかを理解する必要があります。この書籍では、物語の連鎖という視点で、事例を深く分析する考え方や技法を学ぶことができます。